



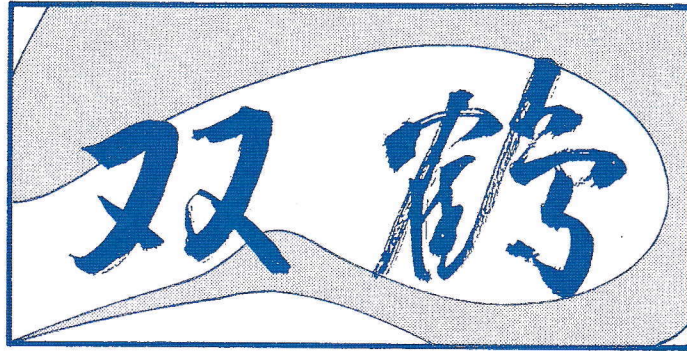
1回(昭2年卒)～  
23回(昭24年卒)  
卒業生2,835名



1回(明43年卒)～  
39回(昭24年卒)  
卒業生3,327名



1回(昭23年卒)～  
76回(令6年卒)  
卒業生31,444名



双鶴同窓会報

発行〒624-0841  
京都府舞鶴市字引土145  
京都府立西舞鶴高等学校

双鶴同窓会  
☎(0773) 75-3131

編集責任者 中西 毅

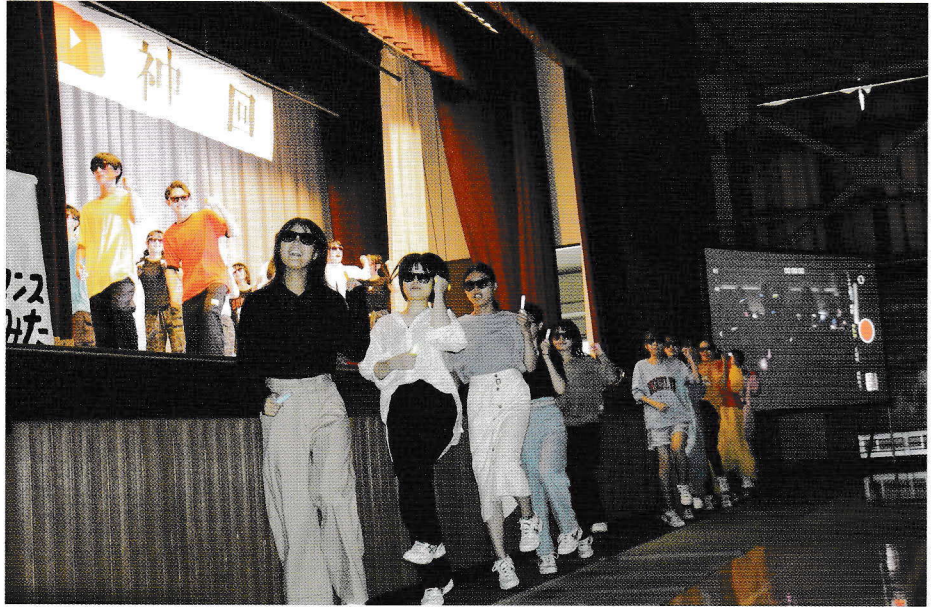
印刷 オガワ印刷

校訓  
究理 尚志 敬人

令和6年3月 卒業生  
高校生活の思い出



▲令和3年4月 入学式(全日制)



▲令和5年9月 文化祭(全日制)



令和5年6月 体育祭(通信制)



▲令和5年3月 課題研究発表会(全日制理数探究科)



▲令和4年4月 第2学年遠足・嵐山(全日制)



▲令和5年9月 体育祭(全日制)



▲令和5年10月 理科校外学習(通信制)

双鶴同窓会のホームページをぜひご覧下さい。(URL <http://www.soukaku.com/>)

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。同窓会を代表して心からお喜び申し上げます。

卒業生の皆さんには、卒業と同時に双鶴同窓会に入会していただくこととなりますが、この機会に、双鶴同窓会の歴史と伝統行事について紹介をしておきます。

本校の同窓会は、昭和二十三年の学制改革によって、舞鶴高等学校(舞女・明治四十年開校)、舞鶴中学校(舞中・大正十一年開校)と新たに開校した西舞鶴高等学校の全日制、定時制、通信制の同窓会が統合されて誕生しました。このとき、舞女・舞中の番(つがい)の鶴から生まれた若鶴が西舞鶴高等学校と命名されたこと、双鶴同窓会と命名されました。結成以来七十五年、歴代の会長様をはじめ同窓の諸先輩方が築いてこられた輝かしい歴史と伝統を引き継いで現在に至っています。

本部を母校に置き、会員相互の教養を高め、親睦を図り、母校の発展を支援する目的を持って活動すると会則で定められ、例年六月には地元在住の理事・評議員が集まり、地元舞鶴で本部総会を開催しています。また、東京・阪神・京都地区に同窓会支部があり、それぞれ二年に一度、支部に在住する同窓生が出席し、支部総会と懇談会が開催されています。

さらに、五年ごとに同窓会名簿



双鶴同窓会会長 内藤 行雄 (昭和四十二年西高十八回卒)

### 同窓会の歴史と伝統行事

を改訂発刊し、毎年六月と三月には、本部総会の開催と卒業生の同窓会入会に合わせて同窓会報「双鶴」を発行しています。そして、同窓生の要望に応えホームページを開設し、同窓生の様々な活動状況や様々な情報を発信しています。

この他、全日制では先輩方から引き継がれている「高校卒業三十周年記念同窓会」が、例年一月二日に地元舞鶴で開催されています。令和に入りコロナウイルス感染症拡大の影響を受け、伝統行事が途切れるのではないかと心配しましたが、令和五年一月三日、四

の会」が開催され、世代を超えた先輩後輩が集い、和やかな雰囲気の中で恩師を囲み、少人数で頑張った学校行事やレポート作成で苦労した思い出話など、笑いあり涙ありの同窓会が開催されています。

先に紹介しました本部総会をはじめ、東京、阪神、京都支部総会には、幅広い世代の方々が出席されます。会場の雰囲気慣れるまでは多少堅苦しさを感じますが、そこは同じ学び舎で学んだ者だけが共有できる独特の空気感と心地よさがあり、同窓生の絆は世代を超えて一気に広がります。

十三回生(平成三年卒)が一年遅れで開催、また、四十四回生(平成四年卒)は例年どおり一月二日に開催することができました。

三十年ぶりの記念同窓会では、高校時代を共に過ごした同窓年の仲間が全国各地からふるさとに集まり、式典が終わる祝宴の開始とともに出席者一同が高校生に戻って、時間が過ぎるのも忘れ、懐かしい高校時代を語り合い、卒業以来途絶えていた同窓年の絆を深め、母校西舞鶴高校に対する思いを新たにしている伝統行事となっています。

通信制では二年に一度「通信制



令和3年6月 生徒総会(通信制)



令和3年7月 夏期実習～地球環境と海の生態系～(全日理数探究科)

### こんな活動をしています

沿革と活動(抜粋)

- 昭和23年10月 学制改革にて京都府立西舞鶴高等学校開校 同 双鶴同窓会発足
- 昭和23年10月 京都市支部結成(以後隔年総会)
- 昭和25年8月 東京支部結成(以後隔年総会)
- 昭和50年6月 阪神支部結成(以後隔年総会)
- 昭和52年3月 双鶴同窓会報第1号発行される
- 昭和53年11月 舞女創立70周年西高創立30周年記念行事
- 昭和57年5月 舞中創立60周年大江選手像・舞中碑建立
- 昭和58年11月 文化講演会(第1回)が開催される
- 昭和59年7月 『郷土を考える』パネルディスプレイ開催
- 昭和60年5月 新就職者の激励会始まる
- 昭和61年 舞女80年史完成
- 昭和62年 舞女校歌碑建立 同窓会所有地を京都府に寄付
- 昭和63年 同窓会会員名簿(第6回)発刊 舞女校歌碑を城北中より移転 双鶴会館竣工 通信制同窓会発足
- 平成元年9月 定時制の会発足
- 平成5年 創立85周年記念誌発刊
- 平成7年 同窓会会員名簿(第7回)発刊
- 平成12年 同窓会会員名簿(第8回)発刊
- 平成17年 同窓会会員名簿(第9回)発刊
- 平成19年 高校校歌碑建立 百周年記念誌「致思」発刊
- 平成22年 同窓会会員名簿(第10回)発刊
- 平成23年 双鶴同窓会ホームページ開設
- 平成27年 同窓会会員名簿(第11回)発刊
- 令和2年 同窓会会員名簿(第12回)発刊



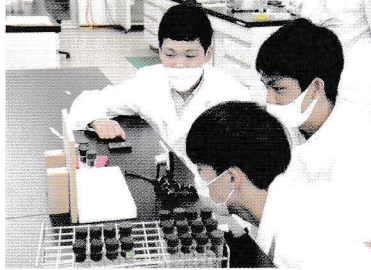
▲令和3年7月 総合的な探究の時間 (全日制)



▲令和5年4月 第3学年遠足・神戸 (全日制)



▲令和5年8月 ものづくり教室 (通信制)



▲令和4年7月 サイエンスキャンプ (全日制理数探究科)

### 卒業30周年には楽しい記念の集いを持ちましょう!

- ◆ 私たちがお世話します。
- ◆ 住所や名前が変わったときは連絡してください。

#### 第76期生 (R6年3月卒) 評議員

1組	早瀬 壮一	松下 さくら
2組	竹岡 歩夢	日笠 みひろ
3組	佐々木 雄大	藤田 日陽
4組	鈴木 克浩	池田 りん
5組	山口 祐輝	砂後 心音
通信制	坂下 瑚雪	平 侑菜

- 先輩の例によりますと、全日制では、卒業20周年・30周年を迎える頃より同期会が盛んになり記念の集いや記念誌の発刊が行われています。それまではクラス単位の集いが行われています。
- 通信制の会では、2年に1度同窓会が行われています。

### 双鶴同窓会各支部役員

#### 【東京支部】

支部長 團野 耕一 (昭48高)  
 事務局長 澤田 謙二 (昭48高)  
 「事務局」 〒216-0035 神奈川県川崎市宮前区馬絹4丁目18番14-201号 藤和宮崎台コープ (澤田)  
 TEL 080-1025-3695 (携帯)  
 メールアドレス jury-22@lagoon.ocn.ne.jp

#### 【京都支部】

支部長 齋藤 敏明 (昭36高)  
 副支部長 堀江 剛三 (昭42高)  
 「事務局」 〒606-0944 京都府京都市左京区松ヶ崎御所ノ内29-4 (齋藤)  
 TEL 075-701-0803 (自)  
 メールアドレス saibin@blue.ocn.ne.jp

#### 【阪神支部】

支部長 谷村 久兒雄 (昭42高)  
 事務局長 坂根 章二 (昭48高)  
 「事務局」 〒586-0021 大阪府河内長野市原町4-8-1-712 (坂根)  
 TEL 0721-56-7124 (自)  
 メールアドレス oyajicch-s@docomo.ne.jp

#### 【通信制課程役員】

◎通信制の会 会長 岩田 護 (平9通) 本部・理事

### 双鶴同窓会本部役員

会長 内藤 行雄 (昭41高)  
 副会長 南部 正治 (昭51高)  
 志摩 敏樹 (昭56高)  
 左織 美紀恵 (昭56高)  
 佐古田 政彰 (昭58高)  
 理事長 渡辺 弘 (昭48高)  
 副理事長 林 博之 (昭59高)  
 庶務理事 米山 隆一郎 (昭51高) : ホームページ担当  
 森 宏昭 (昭56高) 中西 毅 (昭49高)  
 阪 昌代 (昭61高) 土師 千穂 (昭62高)  
 木 南成明 (平19高) 山本 美咲 (平28高)  
 会計理事 白井 俊博 (平19高)  
 監査 上山 利彦 (昭41高)  
 齋藤 友幸 (昭43高)  
 顧問 田邊 仁司 校長  
 奥本 有紀 全日制副校長  
 金井 克彦 通信制副校長  
 奥野 久美子 事務長  
 参与 南 房夫 (昭32高) 第8代会長



▲令和5年10月 球技大会 (全日制)



▲令和5年11月 彩雲祭〈文化祭〉(通信制)



▲令和4年12月 研修旅行 (全日制)

本部・事務局だより

佐藤芳直氏が書いた『日本はこうして世界から信頼される国となった』我が子へ伝えたい11の歴史』プレジデント社(二〇二三年発行)を読みました。そのまえがきを以下に紹介しました。

「日本人は美しい」(Japanese people is so beautiful.)」東日本震災から8ヶ月後のニューヨークで、そう語りかけられました。一丁企業を経営しているという黒人青年は、大きな眼から涙を垂し、なぜ日本人はそんなのか、と尋ねるので、自分よりも他人を助けようとする人々、譲り合う人々、混乱の中でも誰かに配慮する人々……

確かに世界中が驚嘆したその姿は、日本人特有のものでしょう。その黒人青年にそれが日本なのだという事。そしてそんな社会の存在が、日本が繁栄してきた最大の要因である事を告げました。

20世紀を一言で要約すれば、日本の躍進した世紀、日本が世界を変えた一〇〇年と言つてよいでしょう。その結果、21世紀は、「世界が日本化する世紀」と確信できます。

勤勉、真面目、正直。この3つが日本人の3大特性だと考えますが、その日本人が構成する分厚い、社会資本は世界の憧れです。生み出され続ける技術は、未だ世界のトップグループにあります。また、アニメや料理に代表される日本文化は世界中を魅了し続けています。模倣され、キャッチアップされている現実、それだけ信頼され、魅力的だという事です。そして経営コンサルティンクの現場に居る者として、これからも日本は新たな価値創造をし続けると断言できます。

なぜなら、技術も文化も先祖から受け継いできた日本人としての生き方が生み出したもので、それは日本にしか創りだし得ないものだからです。つまり、日本人の生き方が、世界を魅了しているわけです。日本の外に出ると実感します。私たちが今あるこの日本という国が、いかに世界中の人たちから信頼され、愛されているかということ。

しかし近年、様々な場面で、日本人の生き方そのものの綻びが表出してきて、その事が私たちの未来を不安色に染めています。何より、子どもたちですら、未来を悲観的にしか見る事が出来ないでいる現実が驚きます。

その原因は、私たちの歴史、そこに観る事ができる素晴らしい日本人の生き方に学んでいないからだと思います。この「今」は、私たちが創ったものではありません。私たちの先祖が、未来の私たちに手渡してくれたものです。世界から信頼され、憧れられている今の日本をつくって手渡してくれた先祖の歴史を学ぶ事ができなければ、何を守るべきかも分かる事はないのです。

本書は、私たちが誇るべき日本人の生き方を、歴史の中から、私なりの視点で選び出したものです。私たちが大人は、先祖が築き上げてきた歴史から何を学び、どのようなかたちで次の若い世代へ語り継いでいけばいいのか。

今こそ伝えたい11の歴史の話を通して、私たちの未来へ未来への恋文を心に描いていただければ幸いです。

《以下略》  
「コロナの嵐が吹き荒れた3年間で、ようやく晴れてきた昨年度6月に同窓会総会を実施し、さらに11月には東京支部総会・懇親会が実施されました。これはコロナ禍を吹き飛ばすかのように多くの同窓会員に勇気を与えてくれました。」

そして今年度には6月に本部の総会・懇親会、7月に京都支部総会・懇親会、引き続き11月に阪神支部総会・懇親会が実施されました。多くの同窓会員が参加され、コロナ以後の双鶴同窓会のパワーを強烈に印象づけました。本意にお疲れ様でした。

一度中断した行事を復活されるには多くの困難があったと推察されます。実際に本部や支部の総会・懇親会に参加し、様々な場面で前述の「日本人(双鶴同窓会員)は美しい」という姿を見ることができました。この姿が同窓会活動を支えている、そしてこの姿があればこれからの同窓会活動もなんとか乗り越えていけるという思いを強くしました。

「コロナ禍に負けない双鶴同窓会を改めて教えてくれた3年間で、卒業生(新会員)の皆さんもこの後に続いてくれると期待しています。さて、双鶴同窓会では定期的に同窓会名簿を発刊しております。4年前(令和2年度版)が発行されました。これを機会に是非、購入されることをおすすめいたします。購入を希望される方は事務局(学校)まで申し出てくださいます。(有料)」



● 伝統的行事の紹介  
毎年卒業後30周年の記念式典、祝賀会、記念誌等の発行、そして母校への記念品の贈呈など、このような行事を通じて横の連携を深め、卒業後も母校のために力強く暖かい援助をいたしたいです。

また、東京・阪神・京都の3支部があり2年に1度の支部総会が盛大に開催されております。親元を離れて生活する諸君にとっては心強いと思っております。各支部事務局と連絡を密にして同窓会活動に積極的に参加してください。

● 連絡とお願い  
同窓会会員の住所などのデータは専門の業者によって厳正に管理されており、住所変更等は必ず本部事務局(学校)に連絡してください。また、同窓会とはまったく関係のない業者からの問い合わせや勧誘があるようですが連絡先が同窓会本部(学校)以外のものは無視してください。

最後になりましたが、今後同窓会名簿をお持ちになった場合は、個人情報を含みますので、その管理につきましてはくれぐれも慎重にお願いします。

京都府立西舞鶴高等学校 双鶴同窓会会則

- 第1条 本会は双鶴同窓会という。
第2条 本会は本部を西舞鶴高等学校におく。
第3条 本会は会員の教養を高め、相互の親睦を図ると共に母校の発展を援助することを目的とする。
第4条 本会は次の会員および客員を以て組織する。
1. 会員 (イ) 舞鶴高等女学校、舞鶴第一高等女学校卒業生 (ロ) 舞鶴中学校、舞鶴第一中学校卒業生 (ハ) 西舞鶴高等学校卒業生 (ニ) 以上の学校に在学したもので入会を希望する者
2. 客員 1項に該当する学校の旧職員および現職員
第5条 本会の目標達成のため委員会をおくことができる。委員長には副会長の1人を充てる。
第6条 委員会および支部の会則は別に之を定める。
第7条 本会に次の役員をおく。
1. 会長 会員の中より総会で選出する。
2. 副会長 理事の中より若干名を選出する。
3. 理事長・副理事長 理事の中より各1名会長が委嘱する。
4. 庶務理事・会計理事 学校より推薦された若干名および評議員より若干名を会長が委嘱する。
5. 理事 評議員の中より適当数会長が委嘱する。
6. 評議員 各学年において互選により適当数を選出する。
7. 監査 評議員の中から2名選出する。
第8条 役員の仕事は次の通りとする。
1. 会長は本会を代表し会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代わる。
3. 理事長は会務全般を処理する。副理事長は理事長を補佐し理事長事故あるときはこれに代わる。
4. 庶務理事は庶務を処理し、会計理事は会計を処理する。
5. 理事は理事会において総会附議事項を審議する。
6. 評議員は総会で総会附議事項を審議する。
7. 監査は会計を監査する。
第9条 役員の仕事は2ヶ年とする。
第10条 本会に顧問若干名、参与若干名を置くことができる。顧問に西舞鶴高等学校長その他適当な学校関係者を会長が委嘱する。参与に元会長を会長が委嘱する。
第11条 本会の経費は会費およびその他収入をもってこれに充てる。
第12条 本会の入会に際して会費4,000円を納める。
第13条 本会は第3条の目的を達成するため次の事業を行う。
1. 会員名簿および会報の発行
2. 会員の慶弔および慰問
3. その他必要な事業
第14条 本会は毎年1回総会を開く。総会は理事、監査、評議員で構成する。
第15条 会員は転居等の変動を遅滞なく本部に報告するものとする。
第16条 付則
本会会則の変更は総会の決議による。
①改定:第14条末尾の「部会」は毎年1回これを開く。」を削除する(平成21年6月13日)
②改定:第5条、第6条、第7条、第8条、第14条、第15条を改定する。(平成24年6月9日)
③改定:第7条4項を改定する。(平成28年6月11日)

# 部活動 特別後援会報

京都府立  
西舞鶴高等学校  
部活動特別後援会

「陸上部？陸上って、走るだけやん。走るだけで何が楽しいん？」

高校時代、陸上競技部に所属していた私は、このような言葉をよくかけられた。この言葉の答えは、一生懸命に走っている者にしか分からないと私はいつも考えていた。しんどいことから逃げたい。できれば楽な道を通りたい。つまらないことはし

## 失敗は成功のもと

挑戦を続けることの意味



山田 晁 睦

(平成8年度卒業)

たくない。これは、誰しもが思うことであろう。では、なぜそれに立ち向かうのか。陸上競技に限らず、スポーツから学ぶことは本当に大きい。

私は、高校時代陸上競技部に所属していた。所属していたといつても、入部したのは一年生の秋頃だっただろうか。当時、校内の部活動にはない種目のスポーツに力を入れていた私は、学校の部活動には所属せず、自ら鍛錬を重ねていた。そこに、当時の陸上競技部の顧問の先生に「陸上競技部に入らないか。」と声をかけていただいた。私は、すぐに入部届を出した。あの頃の私は、何にでも挑戦していた。興味のあること、ないこと、身の回りには様々なことがあるが、「やってみたいと分からない。やってみよう。」という思いでいたように思う。高校を卒業したのが二十七年前。昔と今では、社会の様子も必要とされる力も変化している。しかし、自分の中にある信念は変わ

ることはない。挑戦を続けることの大切さを今も持ち続けている。

これまでの自分の挑戦を振り返ったとき、確実に失敗の方が多いと考える。失敗は悔しいものであり、できればしたくないものであるが、人生を歩んでいく上で、失敗をすることは必要なことであり、避けては通れないものである。何かを始めるときは、必ず失敗から始まるのではないだろうか。人生は失敗の連続。だからこそ、大切なことは、「失敗から何を学び、そして、その失敗をどのようにして成功へとつなげるのか」である。そう考えると、成功から学ぶことより、失敗から学ぶことの方が多くに私自身は考える。そのようなことを私はスポーツを通して学ばせていただいたように思う。

成功体験はもちろん大切。しかし、失敗体験はそれ以上に大切だということである。しかし、近年の教育現場はどうであろうか。失敗の方が多く人生を生き抜くための学びができていないだろうか。子どもに失敗をさせないばかりの指導にはなっていないだろうか。成功体験を積み重ねる学校生活だけではなく、た

くさんのことに挑戦し、失敗し、失敗をした上で、自分たちには何が足りなかったのか、次に同じ失敗をしないためには、今、何が必要なのかを常に問いつながら日々の学校生活を送らせ、自らを成長させていけるとよいと感じる。そう考えると失敗が失敗でなくなる。失敗が、成功への通過点となり、自らの成長の礎になる。

これは、どのスポーツにも通ずることである。人生の中で大切な考え方は、結果よりも経過を大切にするという考え方である。勝負のその日のために、自ら何が感じ、どのように行動してきたのか。何度の失敗を乗り越えてきたのか。経過を大切にできる人は、おそらく「今」を大切にできる人であり、今を大切にできる人は「未来」を大切に考えることができる人である。そして、今を一生懸命に生きている人は、今という時間が輝き、今が輝いている人は、当然過去も輝く。そして、きっと、未来も輝く。

陸上競技部で長距離走をしていた私には分かる。「走るだけで何が楽しいのか」それは、苦辛いことから逃げない自分。そ

して、苦しい時に応援してくれる仲間を感じられる自分。そんな素晴らしい自分を常に感じられる。それが長距離走のよさであり、楽しさである。体力、精神力、仲間との絆など、私が部活動から学んだこと得たことは、二十七年たった現在を生きる私の生き方の礎となり、自身の財産として生き続けている。

本誌を読んでいただいている方も、それぞれの場所でそれぞれの部活動に専念されてきたことと思います。今現在もされているという方もおられるでしょう。部活動の経験がないという方も、日々の生活の中で様々な問題に直面し、それを乗り越えてこられたことと思います。自分のこれまでの経験に失敗はあれど、間違いはありません。時間先へしか流れません。どんな時も、失敗をもととせず挑戦を続け、前を向いて、前へ前へ！西舞鶴高等学校と西舞鶴高等学校に関わる全ての方々の輝かしい未来と今以上の発展を心より願っています。ご一読いただき、ありがとうございます。



# ごあいさつ

校長 田邊 仁 司



部活動特別後援会の皆様には、日頃から西舞鶴高校の部活動に対して、御理解と御支援をいただき、誠にありがとうございます。

の中村煌喜さん(三年三組)を中心に稽古に励み、京都府大会でベスト8の成績を収め、創部以来初めての近畿大会出場を果たしました。

さて、本校の全日制課程には、体育系と文化系それぞれ十三の部活動があり、約九割の生徒が部活動に取り組んでおります。部によって、部員数や活動時間、目標は異なりますが、本校のモットーである「勉強も、部活も、全部。」のもと、熱心に頑張っております。今年度は、放送部の森田康太郎さん(三年一組)が「第七十回NHK杯全国高校放送コンテスト京都大会」において、朗読部門で第六位となり、全国大会に出場しました。運動部では、ソフトテニス部(男子)が「近畿高等学校ソフトテニス選手権大会」に、剣道部(男子)が「近畿高等学校剣道大会」に出場しました。ソフトテニス部(男子)の近畿大会出場は、二年連続となり、決して恵まれていないとは言えない練習環境での好成績に賛辞を贈りたいと思います。また、剣道部は部員が五名と少人数でありながら、主将

今年度はOB会や同窓生の方から、楽器・バッテリーングマシン・部旗を寄贈いただきました。伝統という強みに感謝し、先輩方からの期待に応えられるようこれからも努力を重ねていきたいと思えます。

通信制課程には、バドミントン部、陸上競技部、卓球部があり、今年度は、卓球女子個人で全国高等学校定時制通信制体育大会に、陸上競技の男子五〇〇〇mと女子砲丸投げで近畿高等学校定時制通信制体育大会に出場しました。継続した練習が困難な中、また、部活動に取り組む生徒が少ない中、自主的な個別練習を重ねて優秀な成績を収めることができました。

私は、部活動には、体力や競技力の向上や健康の保持増進だけでなく、コミュニケーション能力、責任感や忍耐力、協調性などの非認知能力を育む場であることに大きな期待を寄せてい

ます。学年を超えた交流、他校の生徒との交流、目標達成のために仲間とともに重ねる努力、集団での行動などにより身に付けられるもので、学力と同様に大切な力です。また、生涯にわ

たつてスポーツや文化などに親しむ態度の育みにも期待しております。今後、西舞鶴高校の部活動がより活発になり、戦績はもろろんのこと、働く上で必要な社会人基礎力を身に付ける場

としてますます進歩するよう、教職員一同努力して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。



# 応援の大切さ

保健体育科主任 長 田 幹 雄



部活動特別後援会報会員の皆さま、日頃から本校の活動に対して、御理解、御協力いただきありがとうございます。

じます。

その理由として応援の制限がなくなることがあるのではないのでしょうか。応援とは、競技・試合などで、声援や拍手を送って選手やチームを励ますことです。コロナ禍では集団でいることや声を出すことが制限され、盛り上がり欠ける部分もあつたと思えます。しかし、応援が復活したことで、競技場も盛り上がりやすくなり、選手も気持ちよくプレーできるのでパフォーマンスも上がると思えます。私はサッカー部の顧問ですが、サッカーの公式戦も応援の制限がなくなり、たくさんの保護者等に応援に来ていただきました。他の競技でも同じだと思います。応援していただくことは、選手にとつてとても力となります。試合後のインタビューで選手が

「みなさんの応援のおかげで勝てました」「応援ありがとうございます。ありがとうございました」とよく答えています。苦しいときに応援の声が聞こえて、奮い立たせてくれたということもあるでしょう。スポーツに限らず、応援していただくということは大切なことだと思います。

しかし、これだけ応援が大切なのであれば、プレーヤーは応援していただけるような行動や振る舞いをしていく必要があります。大谷翔平選手のゴミ拾い等数々の有名なエピソードやサッカー日本代表選手のロッカールームの後片付け等がお手本になるのではないのでしょうか。西舞鶴高校の生徒は、応援したくなるような生徒がたくさんいます。さらにたくさんの方に応援していただけるよう、各部活動顧問で指導していきたいと思っております。

後援会会員の皆様におかれましては、本校部活動に対して今後とも応援していただけるようよろしくお願申し上げます。

【令和5年度 通信制活動報告】

- **令和5年度京都府高等学校体育連盟定時制通信制両丹支部卓球選手権大会 兼 第56回全国高等学校定時制通信制卓球大会両丹予選会**
  - 開催日：5月21日(日)
  - 会場：京都府立綾部高等学校本校
  - 結果：女子シングル 「優勝」小田 かおり
- **第56回全国高等学校定時制通信制卓球大会京都府予選会**
  - 開催日：6月3日(土)
  - 会場：京都府立綾部高等学校本校
  - 結果：女子個人 「優勝」小田 かおり
- **令和5年度全国高等学校定時制通信制体育大会 第56回卓球大会**
  - 開催日：8月8日(火)～8月10日(木)
  - 会場：駒沢オリンピック公園総合運動場屋内卓球場(東京都)
  - 結果：女子個人「4回戦進出」小田 かおり
- **令和5年度京都府高等学校総合体育大会 第74回両丹高等学校定時制通信制総合体育大会**
  - 開催日：9月16日(土)
  - 会場：福知山市三段池公園総合体育館
  - 結果：ソフトバレーボール 「優勝」  
浦田 優、浦川 博司、原 咲歩、新井 美咲、森本 菜夢、  
杉山 訓崇、海透 早美  
男子バドミントン 「3位」  
田野島 想一朗、亀井 徠愛
- **第75回京都府高等学校定時制通信制総合体育大会・陸上競技の部**
  - 開催日：9月17日(日)
  - 会場：京都府立丹波自然運動公園陸上競技場
  - 結果：女子砲丸投げ 「優勝」増留 葵  
男子5000m 「第2位」櫻井 悠登
- **令和5年度第59回近畿高等学校定時制通信制課程体育大会 陸上競技大会**
  - 開催日：10月29日(日)
  - 会場：ベイコム陸上競技場(兵庫県尼崎市)
  - 結果：女子砲丸投げ 「第2位」増留 葵  
男子5000m 「第3位」櫻井 悠登
- **令和5年度京都府高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会**
  - 開催日：9月7日(木)
  - 会場：京都府総合教育センター
  - 結果：「奨励賞」海透 早美
- **令和5年度近畿地区高等学校通信制 生徒生活体験発表大会**
  - 開催日：10月7日(土)
  - 会場：奈良女子高等学校(奈良県奈良市)
  - 結果：「奨励賞」海透 早美



続・躍進の一年

通信制副校長 金井克彦

部活動特別後援会の皆さまにおかれましては、平素より本校通信制の教育活動に係り御理解と御支援をいただきありがとうございます。

さて、昨年度は、「バドミントン部」「陸上競技部」が近畿大会に出場するとともに、「京都府高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会」において、代表生徒が二

年連続「上位入賞」を獲得する等、通信制生徒の活躍が光る一年となりました。

今年度も、「両丹高等学校定時制通信制総合体育大会」において、「ソフトバレーボール」が三年振りに「優勝」さらに、「陸上競技部」が「近畿高等学校定時制通信制課程体育大会 陸上競技大会」において、「上位入賞」を果たすとともに、「卓球部」が「全国高等学校定時制通信制体育大会第五十六回卓球大会」に「出場」する等、昨年度に引き続き「躍進の一年」となりました。次年度も引き続き、通信制生徒の活躍を期待したいと思います。

令和5年度 全日制部活動顧問紹介

運動部

文化部

テニス	水泳	柔道	剣道	ソフトボール	卓球	サッカー	バレーボール	バドミントン	陸上競技	バスケットボール	ソフトテニス	野球																							
大西慎市朗	奥野千恵	大塚朋代	齊藤美介(外部)	川端茂大	林洋一	榎原和彦	中井巧也	奥藤晋平	松浦花音	荒田博隆	田中翔太	長田幹雄	橋本雅	仲井千恵	野坂尚司	吉村朗甫	田村繁人	木南成明	永井国浩	村上亘	藤田真菜美	山口慧士	岩佐幸葵子	小森仁一朗	松田浩典	戸井田明	柏野大樹	兼田真由美	本郷萌子	川上顕広	本田隆貴	奥藤晋平	遠藤生	白井俊博	新谷俊行
				自然科学	WES	演劇	茶道	囲碁・将棋	写真	美術	書道	放送	パソコン	料理	吹奏楽																				
				大塚朋代	中井巧也	小森仁一朗	川上顕広	本藤聡仁	藤田真菜美	奥野千恵	橋本雅	仲井千恵	奈良井沙織	棟方良	小栗美由起	嶽勲	本郷萌子	山本美咲	三浦良樹	松田浩典	榎原和彦	栗山真美子	兼田真由美	渡邊美咲	本藤聡仁	棟方良	本藤聡仁	田村繁人	土師千穂	栗山真美子	林洋一	松浦花音	山本美咲	三浦良樹	



令和5年度

# 部活動報告

— 更なる飛躍を!! —

## 水泳部

来年も

一年 土井彩百里

私は高校生になり、新しい環境の中で水泳に取り組んできました。その中で新人戦では近畿大会に出場することができました。しかし、私の目標はインターハイ予選である近畿大会に出場することなのでこの結果に満足していません。練習をしていく中で記録が伸びないこともあり自分に甘くなり目標のレベルが低く、ただ泳いでいるだけの日がありました。今も結果が出ず練習も水泳も楽しくないと感じてしまう時もありますが来年

度は、新人戦と近畿大会に出場できるように高い目標を持ち続けて水泳に励みたいです。伸び悩んでいる時期や練習が楽しくないなど感じる時でも一緒に練習している仲間と声を掛け合い支えてくれる方に感謝して練習していきたいです。

学習面でも常に目標を持ち、進路のことについても少しずつ考えながら文武両道ができるように工夫して勉強にも励んでいます。

## 剣道部

自分の素直な

意志のままに

三年 中村煌喜

西舞鶴高校に入学する前、僕は部活動に入ってから剣道を続けるべきかと正直悩んでいました。「勉強に専念したい」という思いもあった反面、剣道のつらさを知った上で逃げに徹する

ための都合のよい言葉でもあったと今は思います。そんな弱い心を打ち破ったのは大変なのは分かっていたつもりでもそれを経験したからにはここでやめずに続けたいという一心であったと思います。

そんな先輩が引退し不安が残るものの月日は流れて僕は三年生になり部員も団体戦が組める五人にまでなりました。この状況が「近畿大会出場」への思いをさらに加速させてくれました。そんな思いを常日頃からサポートしてくださる方々は最大



ます。

この一心で入部したため当初は大きな大会への出場が目標ではありませんでした。さらには部員数も自分を含め二人であったために低迷期ではありましたが、そんな状況でもたった一人の先輩はひたむきに頑張っておられ顔見知りというのもありましたがやはり頼れる存在でした。

そんな先輩が引退し不安が残るものの月日は流れて僕は三年生になり部員も団体戦が組める五人にまでなりました。この状況が「近畿大会出場」への思いをさらに加速させてくれました。そんな思いを常日頃からサポートしてくださる方々は最大

限に応援してくださいました。それに応えようと僕たち自身も僕たちなりに取り組みました。練習量、技術量でいえば他の学校には劣っていたのは承知の上でしたが、いろんな人の思いを受け止めてそれでも食らい付こうとする全員の意思だけは遅れをとりませんでした。

そうして掴み取った近畿大会出場はとても大きなものとなりました。

何かを成すときには、周囲の人のサポートが不可欠であるのはいうまでもありませんが、一番はどっちに転ぼうとも最終決断を下す自分自身が後悔しない選択をすることが大事だと剣道を通して知ることができました。





# 空手

あと一年

二年 柿本 雄亮

僕は小学一年生から空手をしているのですが、今では生活の一部となっていて空手をするのが当たり前前のようにも感じていたが、高校生になってから、学生として自由に空手ができる時間はあと少ししかないんだと考えるようになりまし。これからは先もどんな形であれ空手をやりたいとは思っているけれど、大人になれば生活や環境が大きく変わるの、とりあえず卒業を節目として、学生としての残りの時間を本当に大事にしようと思つてやってきました。僕が空手に対する意識が大きく変わったのが高校に入った時からいからで、身近にいた先輩たちがほとんど舞鶴を離れることになった時に、今まで見本にしていたばかりで、自分で考えることが少なかつたんじゃないかと感じました。それから空手のことを常に考えるようになりまし。すると、普段の練習から意識が変わつて少しずつ変化を感じられるようになりました。



今年目標とする大会は七月にある全国大会と十一月にある世界大会です。まだ準備期間であるこの二、三ヶ月を特に大事にして、理想の動きができるようにしたいです。また、進路は今のところ進学を考えているので勉強が少し不安だけど、やってきた先輩たちがいるので、それをモチベーションに頑張りたいです。

このように、空手と勉強のこだけしか考えなくていい環境にいられることはとてもありがたいことで、それもあと少ししかないのが後悔しないようにしていきたいです。

# 放送部

部活の思い出

三年 森田 康太郎



六月、突如として私は全国大会への切符を手にする事になる。きっかけは予期できないものどつくづく思わされる。

放送部とは実に主張の少ない部活である。主な活動といえれば週当番の昼放送部と、イベント事の司会進行である。尤も、話すことだけではなく、照明や音響も行う。しかし放送部にも全国大会と呼ばれるものがある。NHK杯全国高校放送コンテストである。私は、朗読という種目で三年間の挑戦を行った。

朗読の内容はシンプルで「課題図書を読み、朗読に適した文章を抜粋し、聞き手に伝える」

というものだ。つまり、どの本のどの箇所を読めば自分の実力が最も発揮できるのか、まず読み解かなければならないのである。朗「読」とはそういうことなのであろうと思う。

全国大会は東京で行われた。三泊四日に及ぶ長丁場である。部室には先輩方が残した全国大会のお土産が置いてある。NHKで買えるぬいぐるみが小さく、立派に、ずらりと並んでいる。かつては西舞鶴高校も全国に名を連ねる勢いがあつたと聞く。その先輩方と同じ空気、緊張感を受けているというのは感慨深いものであつた。

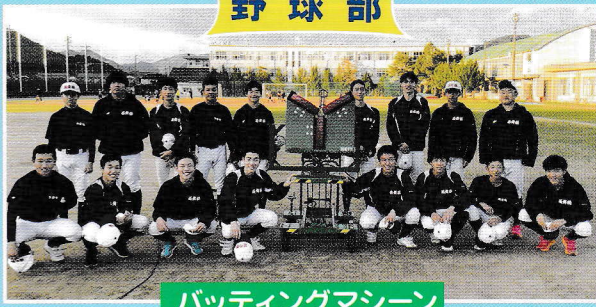
決勝の発表は流石のものだつた。放送コンテストには朗読部門、アナウンス部門の他に、創作ラジオドラマ部門、ドキュメンタルテレビ部門など、作品の完成度を競う部門も存在する。その作品は見事なもので、ニュース番組のワンコーナーを見ているかのような作品もあつた。同じ高校生でここまでの技

術を持つているのかと思うと、全国大会の大きさも実感した。更に放送部という活動の幅の広さにも実感した。朗読、アナウンスに関しては、もうプロと遜色ないのでないかと思う。全員がレベルの高い発声、イントネーション、スピード、滑舌を持つており、何より言葉として耳に入ってくる。

私は決勝大会で何か技術を盗めないかと観察した。喋るスピード、口の距離、息の整え方、収穫は複数あつた。しかし何よりも経験として大きかったのは、全国大会の活気を肌で感じたことだつたのではないかと思う。放送部は、傍から見ればなんの活動をしているのかよく分からない不明瞭な部活だという印象があつた。実際それを払拭は出来ないだろうと思つた。しかし、放送部にも情熱と青春を詰め込めるものがあるんだと分からざるを得ない舞台を、経験することになった。もうその舞台へ立つチャンスは無いのだが、あの夏の熱気は忘れることは無い。これを今後は非、後輩にも感じて欲しいと思う。頑張つたらちよつと良い気分になるよと、この場で話しておきたい。

OB会・同窓会の方より  
寄贈いただきました

野球部



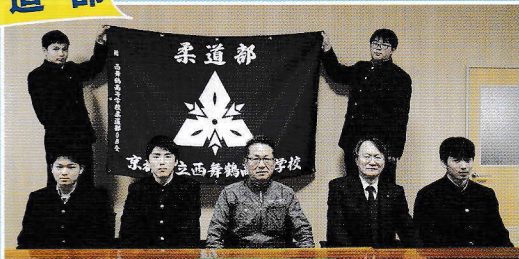
バッティングマシン

吹奏楽部



ティンパニー

柔道部



部旗

剣道部



部旗

部活動実績

運動部

男子ソフトテニス部

▶ 令和5年度近畿高等学校ソフトテニス選手権大会 (7月16日)

種目：団体戦

石間 日彩 (3年)・高峰 璃音 (3年) ペア

山崎 奏汰 (2年)・小林 元慎 (3年) ペア

長倉 由侑 (2年)・左近 滉典 (2年) ペア

波多野優馬 (2年)・山口 颯太 (2年) ペア



剣道部

▶ 令和5年度第61回近畿高等学校剣道大会 (7月16日～17日)

種目：団体戦

荒木 柊人 (1年)・高田 瑛斗 (2年)・小西 悠徳 (2年)

山本 大翔 (2年)・中村 煌喜 (3年)



水泳部

▶ 第7回近畿高等学校新人水泳競技大会 (10月7日～8日)

種目：女子100mバタフライ

土井彩百里 (1年)

文化部

放送部

▶ 第70回NHK杯全国高校放送コンテスト (7月25日～27日)

種目：朗読部門

森田 康太郎 (3年)

